

財団法人 小峰研究所の沿革

大正13年12月25日に設立された財団法人 小峰研究所の代表理事 小峯茂之が、昭和17年10月10日に急死した時に、茂之の長男小峯善茂の長男、当時5才であった孫の小峯和茂が家督を相続した。

小峯善茂は、軍医として昭和15年2月27日に南支で死亡しており、善茂の嫁である小峯 操が、和茂の親権者となり、茂之の娘婿である金原種光が、代表理事となった。(金原種光は、脳梗塞で長期療養ののち昭和59年7月3日死亡した)

小峯和茂は、昭和38年精神科医となり、研修を済ませたのち、小峰研究所の再興を志し、昭和58年7月1日に、代表理事となり、登記し、理事長となり、現在に至っている。

平成24年4月25日

東京都北区西ヶ原 3丁目2番1

財団法人 小峰研究所

理事長 小峯和茂

財団法人小峰研究所の沿革

財団法人小峰研究所は、大正13年12月25日に設立された公益法人（文部省所管）であり、その目的は神経精神病学の研究およびその紹介である。日本におけるこの種の研究所としては最初のものである。

設立場所は、東京市滝野川区西ヶ原町889（現在は、東京都北区西ヶ原3丁目2番1）である。

設立代表者は小峯茂之（王子脳病院長）で、その他の理事は、三宅鑑一（東京帝国大学医学部精神病学教授）、畑井新喜司（東北帝国大学理学部生物学教授）、斎藤玉男（日本医専精神科教授、松沢病院副院長）、植松七九郎（慶応義塾大学医学部神経科教授）である。

設立以後、昭和16年にいたるまで、精神医学に関する基礎的な生物学的研究および自殺の精神医学的研究をして、その結果は小峰研究所紀要7巻にまとめられ、発表された。

昭和17年10月代表理事小峯茂之が死亡し、代って、金原種光（王子脳病院長）が、代表理事となり、研究を続行したが、昭和20年5月東京大空襲のさいに研究所の母体となっていた王子脳病院は焼失し、かつ精神病院疎開の指令があったため廃院となり、研究所の活動も休止をやむなくされた。その後、金原種光は、昭和28年金原病院を設立し（東京都北区西ヶ原2丁目46番9）昭和33年医療法人西ヶ原病院に改組して現在に至っている。（敷地300坪定床92床）。この間、小峰研究所の活動を活発にすることろみは続けておこなわれており、現在は西ヶ原病院内に研究所の仮事務所をおいてある。なお、研究所の図書および資料は、旧小峰病院内に保存されている。

設立代表者小峯茂之および、研究所設立の母体となった王子脳病院について附記する。

王子脳病院は、明治84年8月開設され、開設者は、小峯善次郎である。89年8月茂之（当時は大島姓）は、王子脳病院に就職した。茂之は明治40年10月善次郎の妻の姪はると結婚し、

小峯善次郎の養子となり、小峯茂之と改姓した。茂之は、明治40年9月より41年1月まで東京府立巣鴨病院医員を嘱託されている。41年2月王子脳病院長となり、大正3年小峯善次郎死去のため、開設者をかねた。大正9年以降、日本精神病医協会幹事となる。

大正14年4月王子脳病院の隣接地に小峯病院をたて、院長をかねた。

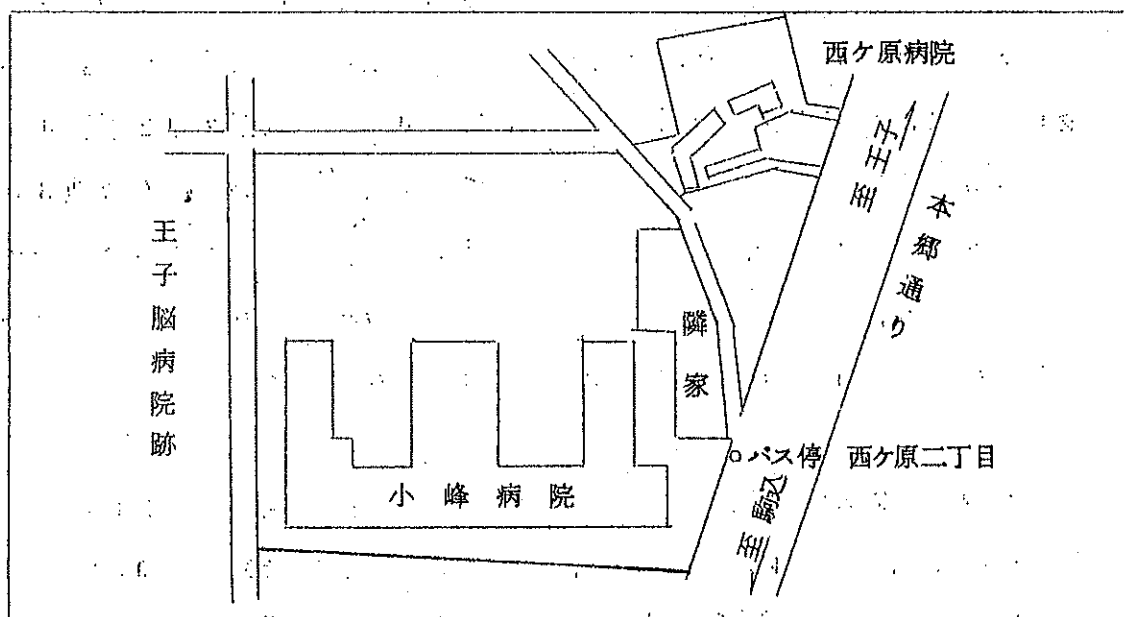
昭和17年10月10日茂之が死去したとき、茂之の長男善茂は既に昭和15年に軍医として南支に出征中に戦死していたので、善茂の長男和茂が家督相続をしたが、未成年のため善茂の妻操が親権者となった。

王子脳病院長となった金原種光について記すと、昭和4年東京帝国大学を卒業し、昭和6年、茂之の長女雪子と結婚し、昭和10年より医局長になり、三宅教授停年退職ののち、昭和12年11月小峰病院に就職し、小峰研究所研究員をかねた。

昭和20年王子脳病院は戦災をうけたが、隣接場所にある小峰病院は不燃建築であったため焼け残った。この建物は、昭和20年大蔵省に借与され、印刷局病院として用いられた。(金原種光は、その神経科医長となる。)昭和28年印刷局東京病院が新設されたため、大蔵省との関係は終り、同年順天堂大学に借与され、順天堂大学分院となったが、昭和32年に看護婦宿舎に転用され、現在にいたっている。

昭和49年10月10日、小峯茂之三十三回忌にさいして記す。

小峯和茂



財団法人・小峰研究所の足跡

- 大正9年 アメリカ合州国フィラデルフィア市ウイスター研究所への留学から帰った小峯茂之が、精神医学のための研究所設立を企画する。
- 大正13年 The Japanese Journal of Neurology and psychiatry 第1号を発行した。
- 昭和2年 日本における精神衛生の振興推進運動をはかるために、「日本精神衛生協会」の設立を支援した。月刊誌「脳」の発行資金援助を、昭和17年まで行った。
- 昭和5年 小峰研究所紀要第1巻を発行した。
- 昭和6年 小峰研究所紀要第2巻を発行した。
- 昭和8年 小峰研究所紀要第3巻を発行した。
- 昭和10年 小峰研究所紀要第4巻を発行した。
研究所敷地内に、アイヌ博物館を付設した。
- 昭和12年 小峰研究所紀要第5巻「明治・大正・昭和年間に於ける親子心中の医学的考察」を発行した。
- 昭和13年 小峰研究所紀要第6巻「情死に対する医学的考察」を発行した。
- 昭和15年 小峰研究所紀要第7巻「無理情死の医学的考察」を発行した。
- 昭和17年 小峯茂之の死去ののち、金原種光が所長となったが、戦争のため、活動を中止した。
- 昭和34年 金原種光は、西ヶ原病院を創立し、その内に小峰研究所分室をもうけ、インシュリン療法・脳研式性格テストの研究を続けた。